



深刻化するクマや
イノシシの被害対策は

宮崎 朋子（つなぐ）



Q 出没頻度の高い河川の藪の刈り払いについて、どのように取り組んでいくのか。

A 環境省の調査では、特に滝寺周辺の河川敷と五智公園北側エリアの藪の刈り払いが推奨され、滝寺周辺の河川敷は令和7年11月に県が実施した。五智公園北側は市で検討している。

Q 分野横断的な部署の設置を望むがどうか。

A 不断の見直しの中で適時適切に検討したい。

市長公約で掲げるトイレ整備の方向性は

Q バリアフリー、美しく快適なトイレ整備の方向性を聞きたい。

A 観光客など、不特定多数の利用者が想定される公共トイレを対象に、優先順位を定めた上で、清潔さや明るさ、バリアフリーや女性の使いやすいさなどの観点も含め、誰もが気持ちよく利用することができ環境の整備を進めたい。

環境美化活動の取組は

Q 環境美化条例の制定やアダプトプログラム、成果を可視化できるゴミ拾いアプリ等の導入はまちの価値向上に有効と考えるがどうか。

A 条例制定とアダプトプログラムは、すでに同趣旨の条例や取組があるため考えていない。アプリなどICTの活用は、全市クリーン作戦や団体の活動の際に情報提供したい。



大人用紙おむつバンク
全国初の創設を！

中土井 かおる（市民クラブ）



Q 物価高騰の中、紙おむつの購入は経済的な負担となっている。市の紙おむつ給付事業は課税世帯や入院中は対象外である。一方で紙おむつが余り、どこに寄付してよいか分からずに廃棄してしまう家庭もあると聞く。行政が主導し必要な時に必要な人が紙おむつを利用できるような仕組みをつくれなにか。

A ケアマネジャー等を通じ現場の声を聞く中で、そのようなニーズがある事を把握している。費用対効果や課題等を整理して調査研究する。



出番と活躍の場で支え合いのまちづくりを！

Q 近年、当市では高齢者の居場所や交流する機会が増えている。一方で人手不足の施設や独居でお困りの人も増えており、地域の支え合いの仕組みが必要と考えるがどうか。

A 居場所、出番、活躍の場という支え合いのまちづくりを目指す。

Q 今後、高齢者が有償で活躍できる場が必要となる。有償ボランティア制度等を広報や高齢者の居場所などで周知啓発すべきではないか。

A 周知啓発を行うとともに、有償の事業としてシルバー人材センター等の紹介も行っていく。



気象防災アドバイザー
の設置を

山田 忠晴（公明党）



Q 近年、豪雨や台風、地震などの自然災害が頻発しているが、気象災害の予測と対応に特化した「気象防災アドバイザー」設置の必要性をどのように考えているか。また、気象庁と連携し、設置や育成を進める予定はあるか。

A 新潟地方気象台による「あなたの町の予報官」と自治体職員との情報交換や、職員研修への講師派遣などにより連携強化を図っている。また、市職員の災害対応能力の向上にも努めていることから、設置や育成の考えはない。



「脳脊髄液減少症」の現状は

Q 市内の医療機関から市へ、当該疾患に関する情報提供や相談は行われているのか。

A 医療機関からの情報提供や、患者やご家族からの相談は寄せられていないが、相談等があれば庁内の関係課や関係機関と連携して、不安の軽減や必要な支援を行っていく。

Q 患者やその家族が安心して相談を受けられる体制整備と市民への啓発が必要と考えるが、どのように取り組むのか。

A 疾患の内容や診療可能な医療機関の一覧を市のホームページに掲載し、周知・啓発に取り組む。